

120周年を迎えて

— 「淑徳魂」からたどる愛知淑徳学園の歩み —

お陰様で、愛知淑徳学園は創立120周年、愛知淑徳大学は開学50周年を迎えることができました。地域社会の皆さま及び学園関係者各位のご支援に対して、心より感謝を申し上げます。

愛知淑徳には、生徒・学生や教職員に語られた心がまえ、教育への信念、理念など、伝統として受け継がれる大切なキーワードの数々があります。その一つが「淑徳魂」です。120年の節目によせて、「淑徳魂」という言葉がどのように生まれたのか、創立者・小林清作先生の志に思いを馳せながら紹介いたします。

理事長就任挨拶

令和7年6月24日の理事会において、小林素文前理事長の後任として愛知淑徳学園理事長に就任いたしました。

理事長として、創立者の小林清作先生が掲げた「10年先、20年先に役立つ人づくり」という教育方針や、時代の先を見据える「伝統は、たちどまらな

い。精神を継承し、変わらないものと役立つものを大切に、学園のあるべき姿を不断に模索し続けてまいります。また、愛知淑徳の伝統においては、教員のみならず一人ひとりの職員が、生徒・学生が常に活き活きとした輝く存在であるために、何が必要かを考える姿勢が重視されています。今後この姿勢を大切にしながら、より多くの在校生・在学生と卒業生に「愛知淑徳に来てよかった」と感じていただける学園をめざす所存です。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事長 小林 三太郎

小林清作先生の負けじ魂

愛知淑徳学園は明治38年に誕生し、愛知県で私立の高等女学校としては最も古い歴史を誇ります。創立者の小林清作先生は、女子教育は家事や裁縫だけでよいとされていた当時、英語や理科を必須科目とするなど先進的な教育を実践されました。その原動力となったのが「将来の時勢を考え、十分に新しいことを教えて、10年先、20年先になっても、決して時代に遅れるようなことのない人をつくりたい」との信念です。清作先生は生徒のよりよい学校生活や未来を見据え、困難にもくじけない「負けじ魂」を燃やして行動を起こされました。次に、清作先生が取り組まれたことを紹介します。

■ 修学旅行の実行

愛知淑徳では明治42年卒業の第1回生より、伊勢神宮への「卒業御礼参り」と称した修学旅行がありました。女学校での宿泊を伴う旅行は愛知県下初。世間から厳しい目が向けられましたが、清作先生は生徒の希望を汲み、反対するご父母を「宿泊旅行に間違いを犯す教育はしていない」と説得され、実行に移されました。その修学旅行の5日後に開催された第1回卒業式は「美なる卒業式―校長別れを惜しみて泣き、卒業生泣きて校門を出ず」と新聞に取り上げられ、充実した学校生活や、先生と生徒の絆が窺い知れます。



大正9年の制服(再現写真)

洋服採用

大正9年の入学生から愛知県下初として制服に洋服が採用されました。最初は不評でしたが、清作先生は「汽車が一回脱線したとて、汽車はだめだということはできない」と述べ、活発に動ける洋服の必要性をいくつもの論文で啓蒙しながら初志を貫徹されました。



昭和8年の東京修学旅行

体育の奨励

女子が運動することへの苦情もありましたが、清作先生は「美人観の革命」「これからの女子は身体を強健にして、動作を活発にし、生き生きとしてあらねばならぬ」と言葉を尽くされ、体育を奨励されました。それにより多くの運動クラブが活躍するなど、文武両道の快活な校風が育まれました。



大正7・8年頃の運動会

陰徳の実践

清作先生は校内の清掃をするなど常に「陰徳」を実践されました。「陰徳」とは、人知れず、見返りを求めずさりげなく善行を行うことです。労をいとわず、人が嫌がることも率先して行い、奉仕の精神を自ら表現されていました。その背中を見た生徒

たちは、思いやりの心を素直に行動で示すなど、人としてのやさしさを学んだことでしょう。

それぞれの淑徳魂

昭和3年の夏休み、愛知淑徳は校舎を東新町から池下に移転しました。業者の方々だけでなく教職員や生徒、卒業生、ご父母の一致協力のもと、校舎を解体し、その木材を運び、再び建てるという移築作業を、わずか40日間でなしたげたのです。清作先生は「学校にはその学校の魂があるべきはずである。私はおぼろげながらその魂を意識していたが、淑徳をこの池下に移転したとき、はつきりとこれを認め得た」と述べられ、昭和4年に創立以来の歩みを回顧し、「淑徳魂」とまとめられました。今日では、「負けじ魂」と「陰徳」からなる愛知淑徳の伝統精神を「淑徳魂」と呼び、大切に継承しています。

そして今年6月、「愛知淑徳学園創立120周年記念祝典・コンサート」では、在校生、卒業生、教職員、一人ひとりの淑徳魂が共鳴し、過去・現在・未来をつなぐステージがくり上げられました。愛知淑徳らしさが光る、心に響く祝典でした。

創立より令和7年までの時点において愛知淑徳学園の卒業生が12万人強となり、それぞれの淑徳魂を胸に活躍されています。その輝きは愛知淑徳にとって伝統でもあり、120年の歩みを力強く支えてくださいました。改めて感謝の念を深くするとともに、この先も「伝統は、たちどまらない。」の精神で一歩ずつ進んでまいります。